行動計量学会報

日本行動計量学会事務局
東京都港区南麻布４－６－７
統計数理研究所　村上研究室

第27回大会を終えて

垂水　共之

去る9月20日から22日の日程で倉敷市民会館，芸文館を会場にして，第27回大会を行い，皆様方のご協力の下，無事終了することができました。2年ほど前に，内示を受け，準備を進めて参りました。岡山地区での開催は第5回，第17回につついて3回目であり，これまで岡山市で開催していること，7月に別の関連学会が岡山市で開かれることを考慮して，隣の倉敷市に場所を求めました。会場が徒歩10分程の2会場に分かれていたため，ご迷惑をおかけしましたが，その分，倉敷美観地区の雰囲気を味わってもらえたのではないでしょうか。一日目の夕方には大ホールで若者向けのコンサートがあり，会員の皆様方には何かとご迷惑をおかけしました。

本大会は，意識してインターネットを駆使した大会にしました。講演申し込み，予稿集の受付も過半数はインターネット経由でした。具体的には発表件数110件のうち，電子メールでの予稿集提出が59件でした。省力化のため，受付締切後にまとめて事務処理を行う計画でしたが，会員への連絡が不十分であったため，早期に申し込みをいただきました方々にはご心配をおかけしました。ホームページからの申し込みには，自動返送メールで対応すべきであったと反省しております。

プログラム・予稿集の作成にあたり，講演題目・所属等の内容が申し込み時から変更・修正されているのが30件ありました。また，予稿原稿を締切までにいただけたのは62件（56.4%）にとどまり，10日以上遅れたのが17件ありました。自分のことを棚に上げて言うつもりはありませんが，大会事務局のために，締め切りにはできるだけご協力ください。

参加者は一般233名，特別講演・特別セッション等の無料参加者26名，その他6名の265名でした。2日目の夕方には倉敷の地ビールの店で，懇親会を開きましたが，89名の方々に参加していただきました。懇親会の申し込みが思ったより少なく，心配しておりましたが，申し込みを一旦締めた昼過ぎから続々追加申し込みがありうれしい悲鳴をあげました。もう少し増えれば，2階を開放する予定でいました。

特別講演として，地震予知の話題と，地元大原美術館の話題をお願いしました。地震の件については学会員もコミットできる部分があるのではないかと思っております。大原美術館の理事長の講演のときには，1台しか用意しなかったスライドの球が切れ，芸文館の向かい側にある岡山大学の研究所からあわててスライドを調達するというハプニングが起きてしまいました。やはり，すべて予備を用意すべきだった反省している次第です。

今回事務局を引き受けて，平行4セッションの会場探しは，地方ではなかなか難しいことがわかりました。十数年後に引き受けるときにはどこにしようかと，今から会場探しを始めておきます。

（たるみ　ともゆき，岡山大学教養部，行動計量学会理事）

平成11年度第3回理事会報告

日　時:平成11年9月20日 PM6:00～8:00
場　所:倉敷市民会館
出席者:池田 央, 市川 雅教, 岩崎 学, 江川 清, 大隅 昇, 岡太 彬訓, 狩野 裕, 久保 武士, 駒沢 勉, 繁桝 算男, 杉山 明子, 垂水 共之, 林 知己夫, 原 純輔, 前川 眞一, 村上 征勝, 柳井 晴夫, 柳原 良造, 山岡 和枝, 吉野 諒三
議題:

1. 行動計量学会総会について
事務局より第27回大会総会次第について説明があり了承された。

2. 第27回大会(平成11年度)について
垂水大会実行委員長より大会初日の予稿集の売り上げは約190部との報告があった。

3. 第28回大会(平成12年度)について
繁桝第28回大会開催校理事より以下の報告があった。
- ・第28回大会は東京大学駒場キャンパスで開催する。
- ・開期は10月6日(金)～8日(日)
- ・各種学会との共催を検討中
- ・国際的な視野からの内容を考える。

4. 各種委員会報告
- ・池田編集委員長より「著作権に関する規定」について説明があった。他学会での検討状況を参考に慎重にという意見も出されたが, 総会で提案することとなった。
- ・久保和文誌編集委員長より Vol, 26, No1 は再校済みで近日刊行予定であること, また Vol, 26, No2 の編集状況について説明があった。
- ・繁桝欧文誌編集委員長より Vol, 26, No2 は初校中であること, また Vol, 27, No1 の編集状況に付いての説明があった。また海外への展開についても説明があった。
- ・岡太運営委員長より, 以下の報告があった。「臨床評価の信頼性(仮題)」「平均への回帰(仮題)」「言語の国際比較調査(仮題)」および「インターネット調査(仮題)」の4つのシンポジウムを計画中である。また講習会については「新しい多変量解析」を7月16日に実施。参加者は30名であった。
- ・チュートリアルセミナーを9月19日に実施した。参加者は17名であった。また第3回春の合宿セミナーは3月30日～4月1日に名古屋地区で開催予定である。
- ・小グループ研究会の活動状況を会報へ掲載する講習会の剰余金についてはその度毎に学会会計に入れるのではなく, 年度末に学会会計へ繰り入れることとなった。

5. その他
- ・次期の理事選挙の選挙管理委員として市川 雅教, 吉野 諒三, 土屋 隆裕の3名を選出した。
- ・インターネットから学会入会申込書がダウンロードできるようにして欲しい旨の要望があり了承された。
- ・会員の移動状況について事務局より報告があった。
- ・林(知)理事より欧文誌を将来インターネットで配布できるよう検討を開始してはどうかという意見が出された。

訃報：水野前理事長ご逝去のお知らせ

1991年4月から1994年3月に至る3年間, 本学会の理事長の重責を全うされた水野欽司先生が11月2日にご逝去されました。享年67歳でした。水野先生は1977年から1997年まで理事(1977年から1982年まで事務局担当)を務められたほか, 編集委員, 運営委員長の要職を歴任され, 1988年には日本行動計量学会功績賞を受賞されました。また, 1995年からは本学会の名誉会員となっておられます。

水野先生は東京教育大学大学院博士課程を修了後, 1970年4月に名古屋大学教育学部講師, 翌年4月には同助教授になられました。1975年10月からは, 統計数理研究所の第二研究部第一研究室長に転任され, 1977年7月には同研究所第六研究部第一研究室長, 1985年4月には同研究所調査実験解析系教授となられ, 1991年7月には大学入試センター研究開発部教授に転任され, 1995年3月に退職されました。

統計数理研究所在職中は, 同研究所内に設定された「国民性調査委員会」の主メンバーとして, 第6次調査(1978年)以来携わり, 特に, 第8次調査(1988年)では委員長として, 全国の大学等のネットワークを組織して調査を実施されました。

また, 大学入試センター研究開発部在職中は, 共同研究「近年における教育環境の変化が大学および進学志望者に及ぼす影響に関する研究」の研究責任者として, ランダム標本の抽出, 調査票の作成等を担当されました。

著書には, 「SPSS統計パッケージ, 解析編」(東洋経済新報社), 「計量生物学・行動計量学」(放送大学教育振興会), 「多変量データ解析講義」(朝倉書店)等があります。

日本学術会議報告

統計学研究連絡委員会委員長
第４部会員 吉村 功

総会などの会合が１０月２５日から２８日にかけて開かれました。今までと同じように主観的に取捨選択をして情報を送ります。

１．学術会議の位置づけについての声明

一言でいうと，学術会議は学者の国会です。ですが現在は，学術に関する政策を学術会議で決めることができません。できることは，政府に対する勧告や声明を出し，日本の学者を代表しているということで「科学技術会議」や各省の大臣・担当官に圧力をかけ，要望を政策に反映させることです。

現在進行している行政改革では，この方式がもっと強まりそうです。人文科学，社会科学を含めた学術面での政策立案を，全面的に「総合科学技術会議」にゆだねようとしています。学者の総意を何かの政策に結びつけたいというときは，そのルートを通さなければならないことになりそうです。そうした場合，学術会議はどのような役割を果たすべきか，というのがこの１年半ほどの間議論してきたことですが，そのまとめが今回「声明」の形で採択されました。その正確な内容は「http://www.scj.go.jp」に１１月中に掲載されると思います。

声明での一つの強調点は，総合科学技術会議がトップダウン型であるのにたいし，学術会議は今後もボトムアップ的に政策提案を行う，という宣言です。ボトムアップ的な政策提案は，たとえば国大協といった機関を経由してもなされていますが，理念的なこと，大学を横断する学会的なこと，国際交流的なことは学術会議経由の方がまとめやすいということでしょう。これらは現在の学術会議が重要な役割を担っている側面ですから，この声明は現状の方向性を追認し，それを変更する必要がないことを積極的に主張していることになります。

現在，各学会で第１８期（２０００年７月～２００２年７月）の学術会議会員の選考が進められていますが，選考に当たっては，海外との交流，近縁学会間の研究連絡，科学研究費の審査員の推薦といった直接的な役割の他に，このような大局的な政策提案も重要だということを考慮に入れるようお願いします。

２．研究環境の改善についての勧告

大学に勤めている方で，スペースが十分だと感じている方がいるでしょうか？圧倒的に多くの人は，近年，研究室のスペースが窮屈になるばかりだ，と感じているのではないでしょうか。

これは元東大学長である吉川会長にとっても実感がある事柄だったようで，第４常置委員会がまとめた「大学の研究スペースを３倍くらいにすべきだ」という報告を，政府に対する勧告にしよう，と会長自身が全員に向かって提案し，今回の会議で採択されました。

報告の内容でもっとも強く述べられていることは，３年前に決められた科学技術基本計画では，５年間で１７兆円を投入して大学等の環境整備をするといっていたのに，現状の国立大学の建物は基準面積に比べても５００万平米不足，欧米に近づけるには１２００万平米が不足である。このような土地建物を造るには数兆円で済むのに，なぜそれが実現しないのか，すべきではないか，というものです。つまりただ拡大を求めているのではなく，投入すべき金が設備備品の更新にばかり使われていて，スペースを拡げるのに使われていないのが問題だというわけです。

現在，経済刺激ということで道路や橋などの土木予算が国の支出に大きな割合を占めています。しかし大学等の条件を良くすることも，知的財産のためのインフラ整備であり，景気刺激策としては土木と変わらないのに，政治家にはそれが分かっていない。政治家にそれを分からせよう，というのが吉川会長の意向なのだろうと，私は解釈しました。

蛇足になりますが，前回報告したように，学術会議会員は，国立大学の元学長や元学部長といった方々が多く，大学というと国立大学を思い浮かべるようです。しかし年齢が６０歳台後半という関係で，現職は私立大学であることも多いため，国立大学中心の作文の中に，必ず私立大学の条件はもっと悪い，という文章が入ります。でもそれを改善する具体的な提案はなかなか学術会議に出てきません。いかにも日本的です。

３．その他

今年度の海外交流については統計研連から柳川堯委員が ISI に派遣されました。

７月31日に統計研連主催，関連学会等共催のシンポジュームが行われましたがその報告は現在整理中です。

学術会議では緊急に安全問題についての声明，あるいは見解を出そうということで，久米均（委員長），吉田民夫（哲学），浜川清（法律），植

草益（経済学），吉村功（理学），井口雅一（工学），浅見輝男（農学），角田文男（医学）の8人委員会が作られました。久米委員長は臨界事故の調査委員ですが，趣旨は，個別の事件を越えた一般論として安全問題をどう考えるかを取り上げることです。

学会賞を受賞して

功績賞を受賞して

立教大学社会学部　岡太 彬訓

今回の受賞をたいへん嬉しく，また，名誉なことと思っております。

私の専門は，多次元尺度構成法（MDS）や関連した手法ですが，もう少し詳しく申し上げれば，非対称データを分析するための多次元尺度構成法やクラスター分析法などの手法ということになります。現実の世の中では，友人間の親近感，都道府県間の高等学校から大学への進学者数や電話の通話量，また，国家間の貿易量，乗用車の下取りと購入の間でブランドが異なるブランド変更など，さまざまな関係や関連は，そのほとんどが非対称です。そもそも，その非対称性ゆえに，さまざまな問題が生じることも多いわけですが，分析手法の世界ではこれらの関係を対称とみなすことが，長らく一般的でした。現実の世の中の関係が非対称であるならば，それらを分析するための手法も非対称を考慮したものでなければならないのではなかろうか，という疑問を感じるのは，ごく当然なことで，私もそのように考えて，非対称データを分析するための手法を扱うようになりました。

しかし，このように当然の疑問といっても，対称性を前提とした多くの，また，長い歴史をもった手法が確固とした地位を確立している状況では，非対称データを分析するための多次元尺度構成法やクラスター分析法というのは，あまり一般的な分野とはいえないのではないかと思います。このようなやや特殊ともいえる分野に目を向けて下さったことも，今回の受賞がなお一層嬉しく感じられる点です。

多次元尺度構成法やクラスター分析法との付き合いは，大学院の修士課程のときに，当時工学部でも講義をしておられた慶應義塾大学文学部心理学科の印東太郎先生（慶應義塾大学名誉教授，University of California, Irvine 名誉教授）に教えていただいて以来になります。この分野を最初に手ほどきしていただいた印東先生に，心からのお礼を申し上げる次第です。

頂戴した賞の名前を恥ずかしめないよう，今後もできる限りの努力と精進につとめ，微力ではありますが，この分野の発展に少しでも貢献したいと考えております。

優秀賞を受賞して

多摩大学経営情報学部　今泉 忠

この度は，優秀賞に選んでいただきありがとう御座います。この名誉ある賞を受賞できましたのは，私の周りの諸先生，同僚の研究者からの叱咤，激励の賜物であると感謝いたします。

長年の間，多次元尺度構成法に関連した分野について研究してきました。私がこの分野に興味を持ちましたのは，大学学部時代にモールス信号の混同行列からモールスコードの布置を構成するという論文，を紹介されたのが最初です。その時の感想は，「どのようにして求めるのか」と「これできちんと求まるわけがない」という2つでした。その後，尺度構成の分野で，計算機を利用した最適化をどのように行うか，観測数が少ないなどの不十分な情報からどのように推定するか，さまざまな3相3元データを分析するためのモデルをどのように考えるなどについて研究を続けて参りましたが，この最初の2つの疑問が，いまでも私の研究の原点になっていると感じています。

今，数えてみますとこの年月は約27～8年も前からのことであると気づきました。その間に，計算機環境，データ環境などの周りは急激に変化し，海外の研究者とも電子メールなどで即時に連絡が取り合えるようになりました。しかし，その時から自分のことを振り返ってみますと，基本的な点では余り進歩がなかったのではと反省し，次の一歩のためのきちんとした研究をしようと思いました。

近年では，大量のデータに含まれている情報をどのように抽出するかなどの研究も，幅広く積極的に行われていると思います。まさにこのような分野こそ，行動計量学や統計学や情報学で扱っている「データ」と「解析」の両者を考えた「データ解析」研究の成果が示される分野であり，自分もこのような分野で研究できることを非常に幸いであると思って感謝しています。

これに関して，最近では「データに含まれる情報」に関して興味を持ち，その観点から尺度構成を考えられないかなどの研究を行っていますが，「データに含まれる情報」はどのようなものであろうかさえ分からずに迷っています。

今後とも，皆様からのお教えいただきたいという厚かましいお願いをして，受賞の御礼と致したいと思います。

奨励賞を受賞して

統計数理研究所　土屋 隆裕

このたびは奨励賞(しかも第1回目の)をいただき，大変光栄に思っております。私は数量化を中心に社会調査データ分析の方法に関心を持ち，行動計量学会に参加させていただきました。しかし考えていくうちに，人から借りたデータや方法論のためにとったデータ等を相手にするよりも，活き活きした生のデータを自分で集め，それを基にすべきではないか，という思いが強くなってまいりました。環境にも恵まれ，ここ数年は調査の設計から実施まで全てを行い，自ら社会調査データを収集するということに時間を費やしてきました。その結果感じたことは，調査をすれば膨大な手間と時間がかかること，データの取得法の研究を疎かにした分析法の研究はあり得ないこと，でした。行動計量学会の諸先生方にすれば当然のことをようやく実感したわけです。なかなか成果に結びつかず地味ではありますが，今後はいかにしてデータを得るかといったことにも重点を置き励みたいと思います。ありがとうございました。

第28回大会のお知らせ

第28回大会が平成12年10月7日(土)，8日(日)，9日(休日)，東京大学教養学部で開催されます。(6,7,8日の予定を変更しています.ご注意ください.)シンポジウムや特別セッションのアイデアを募集しています。特別セッションは，各実質科学の方法論の統合を目指して，いろいろな学会と協力していきたいと思っています。何かアイデアがありましたら，下記アドレスまでご連絡ください。

また，ホームページもご覧ください。

http://gauss.c.u-tokyo.ac.jp/BSJ2000/index.html

繁桝算男(第28回大会実行委員長)

kshige@bayes.c.u-tokyo.ac.jp

★★Behaviormetrika からのお知らせ

★★

Vol.27 No.1に(次の次の号)に，最近10年間の査読者のリストを掲載しようと思っています。所属，住所の変更などお気づきでしたら，下記アドレスまでお知らせ願えれば幸です。

kshige@bayes.c.u-tokyo.ac.jp

第3回春の合宿セミナーのご案内

すっかり恒例になりました春の合宿セミナーを，今年は名古屋地区で開催させていただくことになりました。このセミナーは，心理学・社会学・教育学など主に人文・社会科学を専攻する大学生・大学院生・研究者・実務家の方々に，統計的・計量的手法を学んでいただくための勉強会です。開催の要領は下記の通りです(予定)。経験豊かな講師陣により，最先端の内容に関するわかりやすい講義，パネルディスカッション，質疑応答コーナー等を予定しています。皆様，ふるってご参加ください。また，まわりの方々(会員・非会員を問わず)にもお勧めください。

1. **日程**: 2000年3月30日(木)～4月1日(土)の3日間
2. **場所**: 愛知学院大学(JR名古屋駅より地下鉄・バスで約45分)。最新のマルチメディア設備を備えた会場を用意しています。
3. **プログラム**(11月10日現在の予定):

A. 基調講演
　柳井晴夫(大学入試センター・本学会理事長)
B. 複数講師による企画
1) 共分散構造分析は，パス解析，因子分析，分散分析のすべてにとって代わるのか？
　講師:狩野　裕(大阪大学)，その他交渉中
2) ベイズ統計学を知らないと論文は書けなくなる？
　講師:繁桝算男(東京大学)，その他交渉中
3) 項目反応理論の産業・組織心理学における応用
　講師:渡辺直登(慶應大)，野口裕之(名古屋大)
C. 単独の講師による講義
1) データ解析のための線形代数:初級
　講師:前川眞一(大学入試センター)
2) データ解析のための線形代数:中級
　講師:岩崎　学(成蹊大学)
3) 交互作用の検定と多重比較
　講師:交渉中
4) 共分散構造分析の応用
　講師:交渉中
5) 質問紙調査・主成分分析・心理測定
　講師:村上　隆(名古屋大学)

その他，企画中。

D. 特別企画: Q＆A 統計データ解析

繁桝算男・柳井晴夫・森 敏昭 共編著『Q&Aで知る統計データ解析——DOs and DON'Ts』サイエンス社，1999年，の執筆者にできるだけ多くお集まりいただき，参加者との間でさらに質疑応答したり，参

加者の研究発表にもとづいてよりよい解析方法を指南したり，その他多彩な企画構想中です。

4. 参加費：昨年並みで検討中。ちなみに昨年は，以下のとおりです。

	会員	非会員
学生	2,000円	2,000円
大学教員など	3,000円	5,000円
民間企業など	5,000円	7,000円

5. 宿泊等：会場近くのホテルに格安（1泊朝食つき 5,100 円程度）にお泊りいただけるよう，準備中です。

6. 今後の情報：近々，当セミナーのホーム・ページを立ち上げる予定です。そこからの参加登録もできるようにします。また，プログラムもだんだんと具体的な形を整えていきます。本学会のホーム・ページ (**http://wwwsoc.nacsis.ac.jp/bsj/index_j.html**) をご覧ください。

お問い合わせは，実行委員会

千野直仁（愛知学院大学文学部，chino@dpc.aichi-gakuin.ac.jp）
村上 隆（名古屋大学教育学部，a40169b@nucc.cc.nagoya-u.ac.jp）
野口裕之（名古屋大学教育学部，c31314a@nucc.cc.nagoya-u.ac.jp）

または，運営委員長

岡太彬訓（立教大学社会学部，okada@rikkyo.ac.jp ）

まで．非会員の方も参加できます。次号の会報でも情報をお知らせします。

小グループ研究会募集

日本行動計量学会では，研究活動の活性化をはかるため，毎年数件の小グループ研究会に対して活動経費の助成を行っています。平成 12 年度の小グループ研究会の募集を下記の要領で行います。本年度からの新規，昨年度からの継続，どちらでも結構です。なお採否の審査結果は，5 月中旬にお知らせする予定です。

提出書類：研究会名，代表者，参加予定人数（会員，非会員別），研究会の趣旨（400 字程度），活動予定を記載したもの（既定の様式はありませんが A4 版用紙を使用して下さい）。

応募期限：平成 12 年 1 月 17 日（月）必着

郵送先：〒171-8501 東京都豊島区西池袋 3-34-1
立教大学社会学部
日本行動計量学会運営委員会委員長
岡太 彬訓

お問い合わせは，岡太(tel 03-3985-2319)までお願いします。採択された場合には，小グループ研究会のホームページの作成，終了後に会報への活動の記録の掲載，および，「行動計量学」への研究成果の報告を行っていただくことになります。

関連学会等カレンダー

<シンポジウム等>

☆日本認知科学会「パターン認識と知覚モデル（P&P）」研究分科会第 27 回研究会

テーマ：「ニューラルネットと心理学」
日 時：1999年12月11日（土）13:00～17:00
会 場：お茶の水女子大学共通講義棟2号館1階 102室（営団地下鉄丸の内線茗荷谷下車，又は有楽町線護国寺下車徒歩7分）
非会員参加費・資料代：2,000円
照会先：「P&P 研究分科会事務局」 薬師神玲子
〒464-8601 名古屋市千種区不老町
名古屋大学大学院人間情報学研究科
Tel: 052-789-5179 Fax: 052-789-4712
e-mail: yaku@cog.human.nagoya-u.ac.jp
http://www.sccs.chukyo-u.ac.jp/jcss/

☆第 10 回 AI シンポジウム

会 期：1999年12月16日(木)～18日(土)
会 場：早稲田大学国際会議場 東京都新宿区西早稲田
照会先：人工知能学会事務局
〒162-0821
東京都 新宿区 津久戸町 4-7 OSビル 402 号室
TEL 03-5261-3401 FAX 03-5261-3402
E-mail: info@ai-gakkai.or.jp
http://wwwsoc.nacsis.ac.jp/jsai/index.html

☆シンポジウム「21 世紀へ向けての統計教育」

（統計数理研究所特定研究：代表者 松縄 規）による
日 時：1999年12月21日(火)～22日(水)
会 場：統計数理研究所講堂（東京都港区南麻布 4-6-7）
照会先：松縄 規（統計数理研究所）
E-mail: matunawa@ism.ac.jp
http://www.ism.ac.jp/ciss/sympo99-4.html

☆情報処理学会「知能と複雑系」研究会／電子情報通信学会「人工知能と知識処理」研究会合同研究会

日 時：2000年1月12日(水)～13日(木)
会 場：大阪市立大学 文化交流センター

大阪市北区梅田 1-1-3-1700,
大阪駅前第三ビル16F
テーマ:「社会システムにおける知能」および一般
照会先:和泉 潔
電子技術総合研究所 情報科学部
〒305-8568 茨城県つくば市梅園 1-1-4
Tel: 0298-54-5756 Fax: 0298-54-5857
E-mail:kiyoshi@etl.go.jp
http://www.ymd.dis.titech.ac.jp/sig-ics/

☆2000年情報学シンポジウム

日 時:2000年1月13日(木)～14日(金)
会 場:日本学術会議講堂
東京都港区乃木坂
(日本学術会議(情報学研究連絡委員会,
情報工学研究連絡委員会)他共同主催)
照会先:シンポジウム実行委員会
(情報処理学会情報学基礎研究会を母体とする)
http://www.info.waka.kindai.ac.jp/~www-nakagawa/IPSJFI/index.html

☆The International Symposium on Frontiers of Time Series Modeling

日 時:2000年 2月7日(月)～9日(水)
会 場:統計数理研究所 講堂
(東京都港区南麻布 4-6-7)
照会先:樋口知之(統計数理研究所)
Tel: 03-5421-8749 Fax: 03-3446-1695
E-mail: higuchi@ism.ac.jp
http://mid.ism.ac.jp/~tssympo/

＜科研費によるシンポジウム＞

日本数学会統計数学分科会が"共催"する今年度の科研の研究集会の案内は
http://www.math.kobe-u.ac.jp/HOME/higuchi/ms99.html
を参照。

☆シンポジウム「実験と非線形モデル」

日 時:2000年1月27日(木)－28日(金)
会 場:愛媛県松山市メルパルク松山
(郵便貯金会館)
内容・目的:非線形統計モデルに関連したデータの解析, 実験・観測の計画, 最適性の研究, 諸手法の比較, 等に関連した理論・応用研究
照会先:大阪大学大学院基礎工学研究科
情報数理系数理科学分野 白旗慎吾
E-mail:sirahata@sigmath.es.osaka-u.ac.jp
http://www.sigmath.es.osaka-u.ac.jp/

公募情報

以下の公募は, 応募期限の早い順に並んでいます。応募資格等, 研究者等の公募情報の詳細については, 文部省学術情報センターの「研究者公募情報提供事業」(NACSIS-CIS)の下記WEBページも参照して下さい。
http://nacwww.nacsis.ac.jp/index.htm
ただし, 以下には, 同ページに含まれていない公募情報も掲載されている場合があります。

☆宮崎大学農学部

所 属:地域農業システム学科・地域農林システム学講座
採用人員:助教授または講師1名
専門分野:森林, 農業, 環境経済学等応用経済
担当予定講義;「応用統計学」,「数理計画学」,「環境経済評価論」, その他「情報処理入門」,「学外研修」,「入門ゼミ」,「地域農業システム基礎実習, 実験」等の新入生を対象とした入門, 基礎科目を関係教官で担当。
採用予定:平成12年4月1日以降の早い時期
応募期限:平成11年12月15日
照会先: 〒889-2192 宮崎市学園木花台西1－1
宮崎大学農学部農林生産学科
情報経営管理学講座 教授 行武 潔
Tel: 0985-58-2170, Fax:0985-58-5110
E-mail;yukutake@fec.miyazaki-u.ac.jp

☆東京理科大学工学部第一部

所 属:経営工学科
職名・人員:助手 若干名(有期:3年～5年)
職 務 :経営工学実験, または計算機演習が担当できる方
採用予定:平成12年4月1日
応募期限:1999年12月17日
照会先:〒162-8601 東京都新宿区神楽坂 1-3
東京理科大学工学部第一部経営工学科
教授 山本 栄
Tel:03-3260-4272(内線 3527), Fax 03-3235-6479
E-mail : sakae@ms.kagu.sut.ac.jp

☆千葉大学教育学部

採用人員:助教授または講師1名
専攻領域:体育心理学または体育社会学, バレーボール
担当授業:学部:体育心理学または体育社会学, 測定評価, 保健体育科教材研究, バレーボール等, 大学院:体育心理学特論・演習または体育社会学特論・演習, 課題研究等
採用予定:平成13年4月1日
応募期限:平成11年12月22日
照会先: 〒263-8522 千葉市稲毛区弥生 1-33
千葉大学教育学部 保健体育科教室
佐藤道雄 Tel: 043-290-2618(D.I)
E-mail: msato@e.chiba-u.ac.jp

会員の著書等

☆原 純輔・盛山和夫「社会階層－豊かさの中の不平等」東京大学出版会, 1999年.
☆猪口 孝 他編「現代民主主義の変容－政治学のフロンティア」有斐閣, 1999年.

☆緒方裕光・柳井晴夫「統計学－基礎と応用－」現代数学社, 1999年.
☆竹内 啓「岩波講座 応用数学 16 統計的方法／社会科学における数理的方法」岩波書店, 1998年.
☆竹内 啓「統計で見る世界－21 世紀への展望」東洋経済新報社, 1999年.
☆渡部 洋「ベイズ統計学入門」福村出版, 1999年.

学会誌論文投稿先

和文誌「行動計量学」

〒305-8575 茨城県つくば市天王台 1-1-1
筑波大学臨床医学系産婦人科
久保武士
TEL: 0298-53-3071, FAX: 0298-53-3072
e-mail: sigemitu@md.tsukuba.ac.jp

欧文誌「Behaviormetrika」

〒153-8902 東京都目黒区駒場 3-8-1
東京大学総合文化研究科生命科学専攻
繁桝算男
TEL:03-5454-6267, FAX:03-3485-0481
e-mail: kshige@bayes.c.u-tokyo.ac.jp

入会手続き

学会では新入会員を広く募っています.
詳しくは,
〒113-8622 東京都文京区本駒込 5-16-9
学会センター C-21
(財) 日本学会事務センター内
日本行動計量学会係
TEL: 03-5814-5810
FAX: 03-5814-5825
まで, お問い合わせ下さい.

行動計量学会会員数

(1999年11月現在)

正会員	966人
準会員	47人
名誉会員	6人
賛助会員	22社

編集後記

本学会の名誉会員かつ'91～'93 年度の理事長であられました水野欽司先生が, かねてより病気療養中のところ, 11 月 2 日(月)午後 6 時 55 分, 逝去されました。ご冥福をお祈り申し上げます。

第27回が終わったばかりと思っておりましたら, いつの間にか3ヶ月がたとうとしております。次は東大駒場での開催となります。すでに, 大会用のホームページも立ち上げておられます。どうぞ, 今から準備して, 是非次回にご参加下さい。

会報を会員相互のコミュニケーションの場としても, 活用して下さい。会員の皆様からの御意見など, お待ちしております。会員の方の指導された修士論文, 博士論文, 会員の方の出版された書籍などを会報で紹介していきたいと思います。情報をお寄せ下さい。原稿の送り先は次の通りです。

会報原稿送付先

〒173-8605 東京都板橋区加賀 2-11-1
帝京大学医学部衛生学公衆衛生学教室
山岡 和枝
TEL: 03-3964-1211(内 2178)
FAX: 03-3964-1058
e-mail: kazue@med.teikyo-u.ac.jp

(会報作成担当: 山岡和枝・前田忠彦・山下智志)

☆☆☆WEBページ情報☆☆☆

日本行動計量学会 WEB ページ

http://wwwsoc.nacsis.ac.jp/bsj/index.html

日本行動計量学会第28回大会 web ページ

http://gauss.c.u-tokyo.ac.jp/BSJ2000/index.html